



愛知県美術館では以前から、小・中・高校の先生方を対象にした鑑賞に関するプログラムを行っています。展覧会ごとに先生を対象に展覧会の案内をするとともに、先生方の中から美術鑑賞の実践をされた様子を発表してもらって、他の先生方への参考にしてもらおうという催しです。

今年度最後の鑑賞学習交流会は2月26日に開催し、大変たくさんの先生方に集まっていただきました。年度の最後の交流会では、通常の展覧会解説と先生からの実践発表のほかに学校図書館に展覧会図録のバックナンバーを寄贈することもおこなっていて、図書費の減少の中で1冊でも美術の寄贈本があることは有り難いという声をいただいています。



今回はカンディンスキーと青騎士展の解説のほかに愛知県陶磁資料館からの利用案内もおこない、そのうえで交流会の中心である、鑑賞教育の実践発表＝今回は「鑑賞から表現へ、そして鑑賞へ」と題して、半田市立花園小学校の伊藤増代先生の発表＝がおこなわれました。



交流会後には「鑑賞学習ワーキンググループ」という自主的な研究会サークルの勉強会もおこなっています。こちらのほうは、より実践的な意見の出し合いや美術館と協働して美術館での子ども向けのプログラムをおこなったりしています。それぞれの先生はボランティアとして美術館の教育活動を支援いただいています。



また、一方今回の交流会後には知多の図工美術の先生方を中心にした「知多図同好会」の研修会として展示室での鑑賞実践もおこないました。先生方でとてもにぎわった土曜日となりました。

鑑賞学習交流会は必ずしも図工美術の専門の先生だけを対象にしているわけではなく、鑑賞学習に興味のある教師や教員養成課程の大学生なら参加できますので、気軽に覗いてみてください。

(S.T.)